

八郎太郎の伝説 (二)

山本郡八竜町芦崎 岩谷 トヨ (78才)

八郎太郎がタツコ姫さ通り時分に、久保田さもお宿あったそだ。

そしてシャ、宿さ着だ^ちどころでいつも、わらじのいで、足洗て、座敷さ上て、夕飯食^じべる時^じきに女中さ言うにシャ「オレの寝だどこだけ必ず座敷見るなよ」と言ったど。

んだども、その女中だやら、そ^{おかみ}ごの女将だやら「見な」てば見でもんで、夜中にちょとのぞいで見だどころで、なんとさきの立派な大^おきだ、ええ若者がうって変て大蛇^おになて、いびきかで寝でらたど。それでハア、今度、肝つぶしてハア、その女の人逃げだど。

何も知らねがと思たべども、その後、その八郎様はそごの冢さ泊ったごどねど。

そしたら、そごの冢で、だんだんと冢風^おがかたむいて悪くなったど。